

令和4年度 研究概要

<p>所属名</p> <p>教育相談センター</p>	<p>研究会議名</p> <p>カウンセラー研究員による研究</p>
<p>研究主題</p>	<p>教師と生徒、生徒同士をつなぐ教育相談を目指して</p> <p>～生徒の視点を踏まえた実践研究を通して～</p>
<p>資質・能力</p> <p>育成を目指す</p>	<p>コミュニケーションを通して、気づきを促し、</p> <p>悩みや問題を主体的・能動的に自己決定する力</p> <p>(生徒指導提要より一部引用)</p>
<p>研究内容</p>	<p>私が所属する生田中学校は創立75年を超える川崎市でも歴史ある学校のひとつである。コロナ禍以前より地域とのつながりも深く、「中学生が語る会」(多摩区社会福祉協議会主催)、「地域の皆さんと語り合おうの会」、「地域・学校環境を整える活動」、「初釜の会」「だんご汁の会」などで生徒と地域が交流する機会も多くあった。</p> <p>しかし、コロナ禍における未曾有の事態に生徒を取り巻く環境は激変し、学校生活にも多くの影響が出ている。行事の縮小・改変、地域との連携の減少、部活動を含めた異学年交流、他校との交流の制限など多くの場面で依然「自粛」を強いられている。</p> <p>一方で、上記のような経験が少ないなど、限られているとはいえ、コミュニケーション能力の育成は学校でも家庭でも大きく取り上げられており、必要不可欠な力のひとつであると考えられる。学校におけるコミュニケーション能力とは生徒と生徒、教師と生徒との間で日常的関係性や教育相談的要素を踏まえて育まれるものであることから、教育相談の充実が一層求められている。</p> <p>本校でも毎年、生徒・保護者からの意見を募り、無記名での学校評価アンケートを行っている。本校の「教育の重点」の一つである「生き生きとした活動の推進」では、生徒主体の学校行事を目指した「学校行事に積極的に参加し、充実した活動になっていますか?」という質問項目(①)やリーダーの育成を掲げた「部活動や委員会活動、学校行事を通して一人ひとりの良さを伸ばし、生き生きとした活動が進められていると感じますか?」という質問項目(②)がある。①では教員97%、生徒92%、保護者89%、②では教員94%、生徒87%、保護者83%と概ね、高い水準となっている。しかし、教育相談においては「先生に相談しやすいと感じていますか?」という質問項目に対し、教員94%に対し、生徒73%、保護者70%と大きな差が生じており、本校の課題の一つと考えられる。</p> <p>そこで本研究では、教育相談的技法を学校全体で共有し、教師に向けた具体的研修を行い教育相談の質の向上を試みる。そこで、日常的関わりの中に埋もれがちな生徒の変化を発見するために、年に複数回計画している教育相談の実施後に生徒向けアンケートを取り、教師に対しての話しやすさ、日常の関わりやすさを評価してもらい、生徒の変容を通して、教師が生徒とのより良い関わり方を考える動機づけとしたい。さらに、教師一人一人が生徒への関わり方を見直すことで生徒、及び保護者からの教師・学校に対する信頼力を高めたい。また、教師と生徒、生徒同士の関わり場を増やすことで生徒自身のコミュニケーション能力向上につなげていく教育相談を目指していきたい。</p>